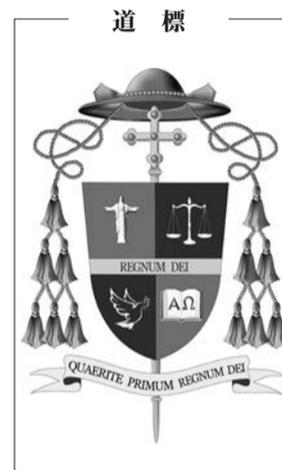




〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



年頭の辞

「神の国」について

回心こそが世の人々への証

鹿児島教区長 司教 中野裕明



「神の国」について

鹿児島教区の信者(司祭・助祭・奉獻生活者・信徒)のみならず、新年明けましておめでとうございませす。この一年、みなさまの上、神様の豊かな祝福がありますようにお祈り申し上げます。

さて、「一年の計は元旦にあり」と申しますが、今年の年頭の辞は、「わたしの司教職の計は元旦にあり」ということになりました。つまり、司教職の聖句に掲げたモットーは、今年限りではなく、私の在任中ずっと継承すべきものであるといえます。

もちろん、「神の国」というテーマは、イエスご自身の生涯のテーマでしたし、イエスがもたらした、福音のキーワードです。

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を

信じなさい」(マルコ11・15)

ですから、私の在任中という言い草も本来おこがましいことではありません。

ところで、イエスの宣教活動はこのメッセージで始まり、72人の弟子を宣教に遣わすにあたり、出会う人々に「『神の国』は、あなた方に近づいた」といいたい(ルカ10・9)と訓示を与え、ご自分の死と復活によってこの世の悪と死に勝利し、この世に神の国を実現させたあと、神の国の王としての権能を12使徒に付与し、福音宣教者として全世界に派遣したので

す。「全世界へ行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。信じる者には次のようなしるしが伴う。彼らは私の名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語る。手で蛇をつかみ、また、毒を飲んででも決して害を受けず、病人に手を置けば治る」(マルコ16・16)

このメッセージの後半は、まさに神の国が実現し

たこととしるしでありま

す。これまで、聖書(神のことば)が語るメッセージを紹介しましたが、人間の理性で理解するところの「神の国」には次の二つがあると思います。一つは、「神権政治」、もう一つは、「ユートピア」です。

「神権政治」とは、別名、「政教一致」ともいえるものですが、古代社会(有史以来4世紀まで)において、民を治める人の権威は神から授かったものという教えが一般的でした。いわゆる祭りごとを主催する人が、政治を行うというわけ

です。ところで、イスラエルの民も王が支配する、一つの国でした。それで人々は、ナザレのイエスに、もしかしたら、自分たちの王(メシア)ではないかとの期待を込めていました。イエスの選んだ12人の弟子たちでさえ、大衆と同じ様な期待をイエスに賭けていたことも事実です(マタイ20・20(28参照))。しかし、イエスは「神の国」の王ですが、この世の国の王ではありません(ヨハネ19・36参照)。私たち信仰者も天の

父の思いよりも、人間的願望をイエスにかけ過ぎることがあるかもしれません、12人の弟子たちと同じ様に。

「ユートピア」とは理想郷のことです。16世紀、イギリス社会の理想の姿を描いた、トマス・モアの作品のタイトルとして使われて以来、一般化したものですが、元来、ユートピアはギリシャ語で「ない場所」という意味です。

つまり、「ユートピア」は否定語で「トピア」は「トポス」の派生語で場所を意味して使われます。イエスが地上で始められた「神の国」は、ある意味で、「教会」として、この世に存続して

いるといえます。しかし、イエスはその説教の中では、「神の国」を「種まき」、「からし種」、「パン種」の比喩を持って説明しています(マタイ13・18(51参照))。つまり、神の国は、生命あるもの、最初は小さいが、やがて成長するものとして理解されています。だとしたら、成長しない教会は、「神の国」とは言えないとも言えます。

最後に、この「神の国」で一番偉い人はだれでしょう。イエスは明言していません。

「心を入れ替えて、子供のようにならなければ、決して、天の国(神の国)に入ることはできない」(マタイ18・3)

教会に属するわたしたちの回心こそが、この世の人々に対して「神の国」がここにあるよ、という証しになるのではないのでしょうか。



1月1日は世界平和の日 平和のために祈りましょう

福者パウロ6世は1967年12月8日、ベトナム戦争が激化するなか、来る1月1日を平和の日とし、平和のために特別な祈りをささげるよう呼びかけました。それ以来、全世界のカトリック教会は毎年1月1日を「世界平和の日」とし、戦争や分裂のない平和な世界が来るように祈っています。

平和はキリスト教そのものに深く根ざしています。キリスト者にとって平和を唱えることは、キリストを告げ知らせることにほかなりません。新年にあたって「信仰の原点に立ち戻り、すべての善意ある人々と手をたずさえて、平和な世界の実現に向かって、カトリック信者としての責任を果たしていく」(日本司教団『平和への決意』)ことができるよう決意を新たにしたいと思います。

2019年 新年のお慶びを申し上げます!

鹿児島教区の司祭・助祭

(敬称略)

教区長 中野裕明
名誉司教 郡山健次郎
司教総代理 泉 浩二
本土地区

P・アン(始良教会)、O・ベルナルディノ(指宿教会)、朴 鎮亮(加世田教会)、泉 浩二(鴨池教会)、竹山 昭、鄭 成淙(ザビエル教会)、頭島 光、J・ムイベルガ、G・ボスコ(谷山教会)、栃尾泰英(種子島教会)、小隈憲士(玉里教会)、山口好信(紫原教会)、鄭法鍾(吉野教会)、B・ステイブ(鹿屋教会)、丸野六雄(垂水教会)、J・サンタマリア(国分教会)、寝占敦之(志布志教会)、朴 昶奎(溝辺教会)、坂本 進(阿久根教会)、萩原義幸(出水教会)、J・ハンマ(入来教会)、M・アッシャー(大口教会)、T・メニツヒ(川内教会)

大島地区

内野洋平(大笠利教会)、松永正男、金 熙一(古仁屋教会)、鈴木康由(小宿教会)、J・タム(大熊教会)、宋 診旭(瀬留教会)、G・ティエン、李 秉徳(名瀬聖心教会)、松永正男、柳本繁春、田端孝之、金 熙一(古田町教会)、福崎英雄(徳之島)、福崎英雄(沖永良部)

教区本部 中野裕明、末吉卓也

司教館 郡山健次郎、永山幸弘

その他

小川靖忠(YBU本部)、関根悦雄(純心聖母会)、貴島丈弥、霧島 彬(留学)、田原 章、成相明人(引退)

終身助祭

桃菌淳一郎(鴨池教会)、池上聖行、池上利男(徳之島教会)久保俊弘(谷山教会)、川口 茂(加世田教会)、石神秀人(阿久根教会)、四條淳也(喜界島教会)

司教評議会

中野裕明(会長)、泉 浩二(副会長)、末吉卓也(事務局長)、頭島 光、小隈憲士、寝占敦之、P・アン、J・サンタマリア、内野洋平(以上、評議員)

教区顧問

頭島 光、泉 浩二、竹山 昭、小隈憲士

責任役員会

中野裕明(代表役員)、竹山 昭、永山幸弘、小隈憲士、泉 浩二

中野裕明司教様をお迎えして

徳之島教会と指宿教会

平土野教会 順 秀子

私たちが徳之島の教会では10月28日(日)、中野司教様の初ミサがささげられ喜びいっぱい活気づいておられますが、司教様をお迎えするにあたり、準備万端だったかと聞かれると反省するばかりで、大変申し訳なかったことを教区報で司教様にお詫び申し上げます。

10月8日、司教様の叙階式に徳之島から6人が参加することができ、感謝と喜びに包まれていたのですが、一夜明けると大松神父様の訃報が入り、あまりに突然の別離に誰しもびっくりました。特に私たち徳之島の教会にとっては、神父様の言葉で「大損失」です。

指宿教会 西田時子

食会のことばかりに気が取られ、花束の準備にも頭が回りませんでした。当日の朝になってそのことに気づいて「女性信徒の会長として失格だなあ」とすごく自分の足りなさを残念に思うことでした。でも神様から「それでもあなたは私の愛する子、今のままで十分」という声が聞こえ、お祈りを通して、「よし」にしようと思えました。

大松神父様とのかかわりが大きかっただけに立ち直れずの状態で司教様を迎えることとなり、初めていらっしゃるのに一品持参の昼

当日は、小春日和の暖かく穏やかな天気にも恵まれ、県内で働く外国からの研修生も多く参加し、総勢50人。聖堂はほぼ満席、力強い祈りが響きま

した。

司教様は、説教の中でご自分の司教紋章の図柄について、詳しく説明

してくださいました。司教様の思い

がこの紋章に込められており、これを目標にして教区

を導いてくださるのだと身の引き締まる思いがしまし

た。

ミサ後、白百合幼稚園の園庭で司教様を囲み昼食会を催しました。べ

司教を囲んで記念撮影(指宿教会)



いつもなら足りない私を皆が助けてくれるのに、誰かが声をかけてくれるのに、今回は大松神父様のことがよほどショックだったのでしょう。

福崎神父様にとつても突然、「何もかも一人で」という現実を受け入れることは大変なことで、私たちはどのように神父様を支え、教会の一員としてやるべきことが問われているような

トナム、フィリピン、日本のお祝いの日の料理に舌鼓を打ち、お国自慢のダンスや歌で楽しいひと時を過ごすことができました。

また、司教様はお母様の仕事の関係で、小、中学校を指宿の地で過ごしていらつしやいます。親しい同級生の参加もあり、ご挨拶も頂きました。

私たちは、司教様に祝福を頂き、励まされ元氣をもらいました。お忙しい中、本当にありがとうございます。

小、中学生の頃の思い出

短歌

鳴池教会 前田儀子

おきざり草の花が目ざめて

咲く午後を椿は音なき紅を

地に打つ

底ごもる悲しみうごく妹の

墓石にセキレイは待つ

国分教会 市来房枝

教会を敬遠している吾が夫が

司祭の指名で聖書を読めり

気がします。

いろいろな事細かな準備ができず、仕方がないので司教様に素直にお詫びしました。その場でコーラスグループを結成して、歓迎の心を聖歌に込めて歌い、許しを願い、その後は皆からも「私も」と自主的に司教様への歓迎のメッセージを伝え、小さいながらも盛大なお祝いとなりホッとしました。

「まず神の国とその義を求めよ」をしつかりと頭の中に入れ、目的を失うことなく、私たち徳之島の教会は福崎神父様と共に頑張ります。みなさん、徳之島の教会へいらしてください。

が詰まった指宿に、またゆつくりとおいで頂きたいと思えます。たまには疲労回復抜群の指宿教会の温泉にゆつくりと浸かり、疲れを癒してほしいと思います。

お待ちしております。

中野司教様のご健康をお祈りいたします。末長く私たちをお導きください。

川内教会の小島さん

2月に終身助祭に

教区終身助祭委員会は、川内教会所属のパウロ小島芳武さんの叙階式を実施する旨を発表した。

終身助祭候補者の小島さんは、1947年1月13日、薩摩郡高城村麓(現在の薩摩川内市高城町)に生まれました。70歳。地元の小学校、中学校を卒業した後、

県立川内高等学校に入学。高校卒業後は上智大学文学部スコラ哲学科に入学し、1965年からレデンプトール会の小神学校に入学した。1967年からはレデンプトール会の修練のため上智大学を休学、1968年に有期誓願を宣立し上智大学へ復学した。その後は1970年にレデンプトール会を退会し、1971年、上智大学を卒業し、就職した。就職後は、結婚、起業などを経験し帰郷。2017年10月に終身助祭候補者に認定されていた。小島芳武さんの叙階式は、2月10日(日)川内教会で行われる予定になっている。

修道会便り

レデンプトール会

本準管区では、2019年から始まる4年期の準管区長に、これまでの瀬戸高志神父に代わり井上武神父が就任、また準管区長代理を石田望神父が務めると発表

した。

カトリック通信講座

1972年開設以来、入門への第一歩として、また信者の学び直し、黙想の助け、職員研修などにもご活用いただいております。

<全7講座>

- T 001 ☆キリスト教とは＝日本の宗教観に照らして学ぶキリスト教の概要。
- T 002 ☆聖書入門〔I〕＝四福音書を通してイエスの生涯をたどる。
- T 003 ☆キリスト教入門＝キリスト教の秘跡や信仰生活について学ぶ。
- T 004 ☆神・発見の手引＝人生、自然を通して神の呼び声に耳を傾ける。
- T 005 ☆聖書入門〔II〕＝使徒の働きとその手紙、黙示録について学ぶ。
- T 006 ☆幸せな結婚＝カトリックにおける結婚の意味や愛、幸福とは？

T 007 ☆生きること・死ぬこと＝老いや命、旅立つ人に寄りそうケアについて考える。

<受講料> (教材費・税込)

- T 001～T 004 各4,800円
- T 005～T 007 各5,300円

<お申込み>

郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T 001～T 007)をご記入の上、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送りいたします。

振替口座番号：00170-2-84745

加入者名：オリエンズ宗教研究所

<お問い合わせ>

オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
TEL 03-3322-7601

+KABAYAN SEKSYON+

Dakilang Kapistahan ni Mariang Banal, ang Banal na Ina ng Diyos- Enero 1, 2019.

Sa pagsalubong natin sa bagong taon 2019, ay ating rin ipinagdiriwang ang Dakilang Kapistahan ni Mariang Banal, ang Banal na Ina ng Diyos, ipinapaalala ng Simbahan sa atin na si Maria, higit kanino pa man, ang tumanggap sa biyayang ito. Sa katauhan niya nagkaroon ng kaganapan ang pagpapalang ito, dahil walang ibang nilikha ang nakakita sa kaningningan ng mukha ng Diyos maliban kay Maria. Siya ang nagbigay ng kaanyuan ng isang nilikha sa Salitang walang maliw, upang lahat tayo ay makatunghay sa kanya.

Si Hesukristo ang pagpapala sa bawat lalaki at babae, at para sa lahat ng sangtinakpan. Ang Simbahan, sa pagbibigay niya sa atin kay Hesus, ay nag-aalok sa atin ng kaganapan ng pagpapala ng Panginoon. Ito ang mismong misyon ng Bayan ng Diyos: ibahagi sa lahat ng tao ang biyaya ng Diyos na naging tao kay Hesukristo.

At si Maria, ang una at pangunahing tagasunod ni Hesus, ang una at pinaka-ganap na mananampalataya, ang huwaran ng Simbahang naglalakbay, ang siyang nagbukas sa pagiging Ina ng Simbahan at patuloy na umaalalay sa maka-ina nitong misyon sa sangkatauhan.

Ang maingat na patotoo ni Maria bilang Ina ang kasama ng Simbahan sa pasimula pa. Siya na Ina ng Diyos ay Ina rin ng Simbahan, at sa pamamagitan ng Simbahan, ay siya ring Ina ng lahat ng mga lalaki at babae, at ng lahat ng tao. Ang sinumang dumudulog sa Mahal na Ina na may kababaan loob ay pinagkakalooban ng Diyos ng mga biyaya.

Kuha sa Homilya ni Papa Francisco (Fr. Dino Orolfo)

司祭評等の役割と教区行事を確認

中野司教誕生後初のコンベンツス

11月20日(火)教区本部で教区に働く全司祭が集う「コンベンツス」(定例司祭集会)が開かれた。

午前10時から始められた会議では、中野裕明司教が叙階式のお礼と現状を報告した。その後、前日に開催された司祭評議会に関して、同評議会の規約とその会議の役割、またコンベンツスの役割が説明された。

特に司教が強調したのは「司祭評議会が司教の諮問機関であり、教区統治において司教を助ける役割がある」という目的と同評議会の権限について。またコンベンツスは「司祭評議会に諮って定まった司教の思いの小教区での実現をどのように具体化するかを検討する役割を持つ」ということだった。また規約に基づき次回開催される司祭評議会からは、新メンバーで実施されることも確認された。

次に2019年の行事についての確認があった。これまでと大きな変化があったのは、



司祭評議会について説明する中野司教

また郡山司教が信心業を大切にしたいと始めた月一回のカテドラルでの「聖体礼拝」についても、中野司教は「カテドラルだけでなくすべての小教区で、聖体礼拝に限らず信心業を実施して欲しい」と願った。ただし実施にあたっては意向を持って行うよう提案した。特に意向として中野司教が推したの



「ザビエル上陸」として祝ってきた記念祭だが、上陸記念としている地は平戸や下関など各地にある。そこで鹿児島教区としては、名称変更も含め「キリスト教伝来の地」を前面に押し出して記念祭を実施していきたい。また実施日についても、聖母被昇天祭であること、上陸の日(キリスト教伝来の日)であること、カトリック平和旬間締めくくりにあたること、終戦の日であることなどを理由に8月15日にこの記念祭を実施したい。

中野司教の霊名を祝い 聖ザビエルの宣教魂に倣う

日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭の祝日にあたる12月3日(月)、カテドラル・ザビエル教会で司教司式のミサがささげられた。

時期には珍しい激しい雨に見舞われたが、それでも午後6時からミサには80人余りの信者が参列し、遠くは徳之島から駆け付けた福崎英雄神父を含む14人の司祭たちと中野司教がささげるミサで、司教の霊名の記念を祝い、また日本宣教のために力を尽くした聖ザビエルの偉業を偲んだ。

世界奉獻生活者の日のミサ
2月2日(土) 15時~

場所: ザビエル教会 司式: 中野裕明司教

イエスとの出会い、奉獻生活の恵みへの感謝の祈りと新しい照明を願う祈りを皆様方と共に捧げてください。ミサ後に小さな茶話会を準備しています。教区修道女連盟

カリタスデーin鹿児島
~神の愛のわざを今・we are caritas~

2019年1月14日(月・振替休日)
会場: ザビエル教会1階ホール

<午前の部 9:30~12:00>
・中野裕明司教挨拶、瀬戸高志神父(カリタスジャパン秘書)講演、協力者たちの声

<午後の部 13:00~16:00>
・鹿児島教区におけるカリタス=愛の聖母園、薩来園、聖園老人ホーム、ゆらいあい、ボーイスカウト鹿児島21団、アルファグループ

・分かち合い
・派遣のミサ

カリタス教区担当・川口 茂
Tel.080(3958)6810
カリタスジャパン、鹿児島教区共催

神、私たちもその神との出会いがあったのだから聖なるものへと変わっていくことができる。そう信じて邁進しよう」とメッセージを送った。ミサ後は、ホールで茶話会が開かれ、司教と司祭、信徒たちの交流のひと時が持たれた。

と提言した。その後は、霧島助祭の叙階式、司祭大会、北薩大会など諸行事についての日程報告などがあつたほか、カリタス鹿児島献金の利用についての確認がなされ閉会した。

短信



心から感謝いたします。(報告:久保政博)

- ▼壮年会が奉仕作業
11月18日(日)、連合壮年会の有志がマリア山荘で奉仕作業をしてくださいました。草刈りに剪定、排水溝掃除、塀の清掃など。ファイトパワー溢れる行動力とチームワークでみるみる間に綺麗になりました。感謝、感激、感動です。そしてこれは「マリア山荘をもっともつと知ってもらいたい、訪れてもらいたい」と語るひと時でもありました。
- ▼きぼうの電話で認定式
鹿児島きぼうの電話(山口寛子委員長)では11月30日(金)、31回目のカウンセリング講座の修了式を教区本部で実施した。6月から始まった講座を修了したのは10人。その中から5人がきぼうの電話の相談員となる決意をして、その認定を受けた。

会と催し

- 1日(火) 神の母聖マリア
- 4日(金) 世界平和の日
- 4日(金) ルカ神父命日(1998年)
- 5日(土) 七田八十吉神父命日(1980年)
- 5日(土) ノイマン祭
- 6日(日) 主の公現
- 7日(月) 教区司祭新年会・教区本部・17時
- 13日(日) 主の洗礼
- 14日(月) 永島泰蔵神父命日(2002年)
- ▼カリタスデーin鹿児島・ザビエル教会・9時30分
- 15日(火) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 18日(金) キリスト教一致祈禱週間・25日
- 19日(土) ハイシク神父命日(1989年)
- 20日(日) 年間第2主日
- ▼キリスト教一致祈禱集会・谷山教会・14時
- 21日(月) 司祭大会・奄美市・24日
- ▼司祭評議会・聖心教会・14時
- 24日(木) コンベンツス・聖心教会・9時
- 25日(金) 聖パウロの回心
- ▼郡山健次郎名譽司教霊名
- 26日(土) フェリエ神父命日(1919年)
- 27日(日) 年間第3主日
- ▼世界こども助け合いの日(献金)
- ▼ステイプ神父叙階記念(1990年)
- ▼オリーブの会・教区本部・14時
- ▼加世田教会堅信式
- ▼司教日程 7日教区司祭新年会、20日奄美訪問、21日25日教区司祭大会(奄美市)、27日加世田教会堅信式
- 【祈祷の使徒会】
祈りの意向
福音宣教
日本の教会
若者とマリアの模範
神の国のしるし

初めて「シドツチ祭」に参加して

枕崎教会 長野 宏 樹

2018年の5月、長崎教区から枕崎教会に引越してきたので、シドツチ祭に参加するのは初めてでした。

シドツチ神父については新聞情報程度の知識しかなく、改めて同神父について調べてみるととても興味深いことが出てきて、キリシタン史について興味を持つ自分としては大変収穫の多いものでした。

今年のシドツチ祭は11月23日(金)の開催で4年ぶりの屋久島町主催とか。記念祭は屋久島町小島の山の瀬の記念碑前で始まり、住民や信者、東京からの巡礼団ら約80人が参列していました。

第1部はシドツチ神父上陸記念碑前で挨拶とフランシスコ会のマリオ・カンドゥッチ神父の講話がありました。第2部は場所を近くの小島公民館に移し、シドツチ神父の人骨が出土した際に発掘調査にあたった元



屋久島町小島山の瀬の上陸記念碑

②今年の記念祭は4年ぶりの屋久島町主催でした。昨今「政教分離」の理由から行政の参加が少なくなっていることを鑑みるとありがたいことと感じました。

③また今年は36回目の記念祭というところでしたが、記念碑、教会堂などの周辺地域が素晴らしく整備されていて感心しました。

東京都文京区教育委員会の池田悦夫氏が「ジョヴァンニ・パティスタ・シドツチの墓と判断された経緯と根拠について」の講演、第3部は教会で中野司教司式でミサがささげられました。夜は宿泊先で懇親会がもたれ大変有意義なものでした。

以下に筆者の感想を記します。

①今年の上陸310周年ということでしたが、164年の大禁教令から90年後においても、バチカンの日本に対する記憶は全くならず状況把握のためにシドツチ神父を派遣したこと。それからさらに123年後の1831年に日本再宣教の道を探るようパリ外国宣教会に指示し、1844年にフォルカド神父が琉球へ第1歩をしるし、それが1865年の大浦天主堂における信徒発見に結び付き、今日に至っているという驚くべき推移を経ていることです。



マリオ神父

④イタリー出身のマリオ神父様のお話では、シドツチ神父の出身地イタリー・シシリア島でシドツチ神父に対する関心が高くなっており、イタリー語とフランス語でのシドツチ評伝の翻訳出版と相まって両教区の交流が実現されるのが期待されているとのことでした。

た。おそらく当初は海岸べたのやぶの中だったと思われ、町をはじめとして地元小島集落の絶大な協力のもと、教区はもろろん歴代主任司祭たちと信徒たちの熱意が今日の姿を実現させたものだと思えます。

た。今後シドツチ神父の殉教者としての列福へとつながることを期待したいものです。

⑤初めての記念祭参加で当たっていないかと思うのですが、「教会側の参加がもつとあつてもよいのではないか」と感じました。このことが今後地元との良い関係、ひいては福音化(福音宣教)につながるものと考えます。

来年は声を掛け合つて参加者増に努めたいと思えます。

鹿児島教区で働く聖職者による セクハラ・パワハラで悩んだら 子どもと女性の人権相談室

TEL090 (3418) 2729

※相談内容の秘密は厳守されます。

KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 1月号

〈3・11〉以降、私たちは自身の信仰、そして教会は変わったのだろうか。変わるべきであるし、それが福音化の姿だろうと思うのだが、現実はそのようではない。今では「福島」は過去の出来事のように思われている。2011年3月11日から、約8年経過しようとしている。川内原発を始めとして全国の原発は次々に再稼働し、更に耐久年数の40年を超えて20年延長も認められようとしている。司法(裁判所)のお墨付き

を得て、国家全体が原発を容認しているように見受けられる。福島原発事故のことは、国家によって忘れようとしてしまっているのだ。福島や東北を生活の拠点としている人々は、この8年間どのような生活をして、何を考えているのだろうか。それを考えることができる本が、佐々木孝著「原発禍を生きた」(論創社)である。

福島県南相馬市在住の佐々木孝さんは、避難をせずに原発から約20キロ離れた

康由神父の聖書教室(9)

善いサマリア人のたとえ

古代イスラエル史から



は、共に時の強国であるアッシリアの脅威に晒されることになり得ます。こうなるに対抗措置としては二つ考えられます。一つはアッシリアに服従すること、もう一つは近隣の国々と反アッシリア同盟を結んで抵抗勢力を築くことです。

そこで、イスラエル王国はアラムと同盟を結び、更に、ユダ王国にもこの同盟に参加することを求めます。しかし、ユダ王国の王アハズはこの同盟に参加することを拒否します。このため、反アッシリア同盟はユダ王国を攻撃し、首都であるエルサレムを脅かししました。これがシリアーエフラ

イム戦争と呼ばれるものです。歴史的に考えれば、この戦争は南北に分れたとはいえず、もともと一つの国が戦い合う、という非常に愚かなものであったと言えます。この結果、ユダ王国は大きな被害を被ったうえ、大量の人々が首都サマリアに捕虜として連行されました。

有名な「善いサマリア人」のたとえは(ルカ10・25〜37)、非常に分かり易いたとえ話ですが、イエス様の意図を理解するために、古代イスラエル史を紐解くことと預言者の言葉を踏まえることが必要となります。

古代イスラエル史上、最も栄えたソロモンの王国は北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂してしまいました。その後、この二つの国

た自宅で、今も妻の介護をしながら生活をしている。佐々木さんは、元東京純心女子大学教授で、在野の思想家である。スペイン思想が専門で、特に20世紀のスペインを代表する詩人・哲学者ウナムーノの研究者である。(カトリック新聞2018年9月16日号参照)自らのホームページに「モノディアログス」(独・対話)として、〈3・11〉以前から自己表現をしてきた。今も継続しており、「モノディアログス」私家版を十五冊発行している。それらの中から、2011年3月10日(震災前日)から7月6日までの文章を収録したものが

た。

この愚かさや悲劇を鋭く指摘したのが、預言者オデドです。彼はサマリアに凱旋帰国した兵士に向かつて、「今、わたしの言うことを聞き、兄弟の国から連れて来た捕虜を帰さない。主はあなたたちに対して激しく怒っておられる。」(歴代下28・11)。また、「捕虜をここに連れて来てはならない。我々は主に對して咎を負っている。あなたたちは我々の罪と咎をいつそう重くしようとしている。我々の咎は既に重く、主はイスラエルに対して激しく怒っておられる。」と語ります(歴代下28・13)。

歴代誌に於けるこの言葉が「善いサマリア人」のたとえを理解する鍵となります。このたとえは単に善行することや誰かの隣人になることを勧めるお話ではありません。この続きは来月に…



り、そこに住む人間たちなのだ。「怒りや笑いにユーモアが伴っており、後味のよい本である。今、介護をして疲れている方には、5月17日付の「唐突な女房賛歌？」を読むことを勧めたい。「悲観論的樂觀主義者」である筆者は、物事の根底に迫る「独りでの対話」を今も続けている。(紫原教会 山下和実)

▼社会問題の分かち合い

(毎月第三土曜日) 日時.. 1月19日(土曜日) 13時~16時 場所..教区本部 内容..原発・改憲・沖縄問題についての情報交換 その他